

NEWSLETTER

THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY

2014. 8. 28



第15回 **咬合フォーラム** **in 大阪**
新・顎咬合学 ～近未来へのパラダイム・シフト～
2014年 **9月28日(日)** 10:15～16:30(開場 9:50)
グランキューブ大阪 (特別会議場 12階)
〒530-0005
大阪府大阪市北区中之島 5-3-51 TEL.06-4803-5555

008 第15回 咬合フォーラム

学術委員長挨拶
倉富 覚



環軸関節を中心に考える頭頸部機能解剖学
阿部 伸一



真に安定した顎頭位を原則とする咬合治療
—Introduction to bioesthetic dentistry—
荒谷 昌利



これからの歯科医療に期待すること
今井 一彰

002 理事長挨拶

新・顎咬合学

—機能を表現する。機能を捉える。機能を発信する。—

003 2014年度事業計画

特定非営利活動法人
日本顎咬合学会の使命と方針

005 海外研修報告

2014年 海外研修

006 常任理事会・賛助会員懇談会報告

平成26年度 日本顎咬合学会始動!

007 相談役就任コメント

日本顎咬合学会相談役に就任して

010 日本顎咬合学会支部活動報告

014 Informations

73

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 ニュースレター No.73



特定非営利活動法人 日本顎咬合学会

〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-8-2 山京半蔵門パレス 201
TEL: 03-6683-2069 FAX: 03-6691-0261

新・顎咬合学

——機能を表現する。機能を捉える。機能を発信する。——

会員の先生方におかれましては、日頃より学会活動にご協力いただき誠にありがとうございます。6月14、15日に行われました第32回学術大会は、5,032名の参加者をお迎えして、成功裡に終了することができました。大会関係者ならびにご参加いただいた全ての先生方に、この場をお借りしまして感謝申し上げます。

学会創立30周年の節目を終えて、新たな目標として掲げられた「新・顎咬合学」も徐々に定着し、新聞や雑誌、テレビなど多くのマスコミに取り上げられるようになりました。これらの成果は、河原英雄先生、増田純一先生、上演 正先生、夏見良宏先生の4名のチームによる講演活動が基盤となっております。寸暇を惜しんで、この事業に取り組んでいただきました4名の先生方に敬意を表するとともに、学会を代表して深く感謝申し上げます。

「新・顎咬合学」は小児と高齢者の歯科医療を両輪として、噛むことの重要性を広く国民に伝えることを目的としております。乳幼児から小児期に獲得された口腔の正しい機能は一生の財産になること、残念ながら失われてしまった口腔機能も正しい治療で回復できること、そして高齢者にとって口腔機能を回復することが全身の健康維持において最も重要であること、これらを伝えていくことが「新・顎咬合学」の目的です。またその目的を達することは、医療分野において歯科の果たす役割がいかに大きいかということを示すことになり、医科歯科連携を推進するための原動力になるものであると信じています。

日本顎咬合学会は、この「新・顎咬合学」に加えて、創立当初から育まれてきた「咬合学は全ての臨床分野につながっていること」「臨床医による臨床医のための学会であること」「歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士の三位一体の学会であること」の4つの柱によって支えられています。この4つの柱をバランスよく、さらに発展させていく必要があります。そして、今後も日本顎咬合学会の発展が、日本の歯科臨床の発展につながるような活動を続けていかななくてはなりません。

会員が相互に切磋琢磨し、臨床の質を高めるための研鑽の場として、努力を共にしていきたいと思えます。会員の先生方におかれましては、今後も学会活動にご協力いただけますよう、心よりお願い申し上げます。



特定非営利活動法人 日本顎咬合学会
理事長 渡辺 隆史

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会の使命と方針

◆ 使命(ミッション)

日本顎咬合学会は、国民の健口長寿と歯科医療の進歩と発展に貢献します

◆ 方針(ビジョン)

日本顎咬合学会はリーダーシップを発揮し、革新と創造への挑戦を迫り、理念を実現します

2014 年度事業基本方針

「新・顎咬合学 ——機能を表現する。機能を捉える。機能を発信する。——」

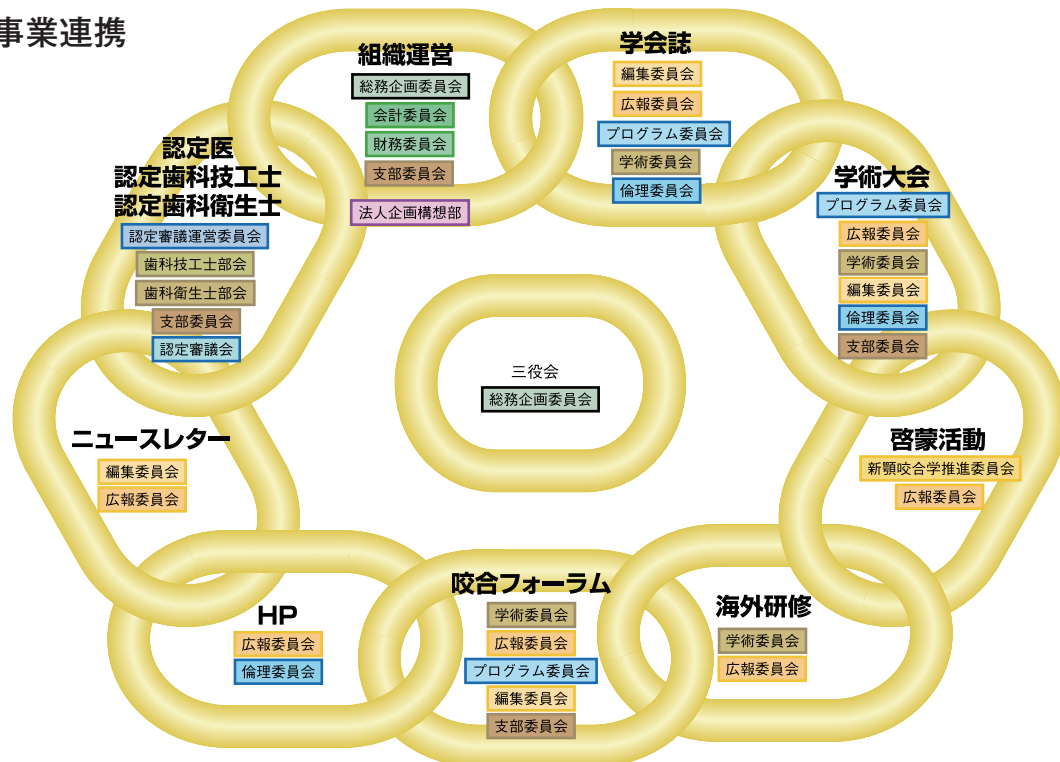
2014 年度理事会運営方針

協調性と調和

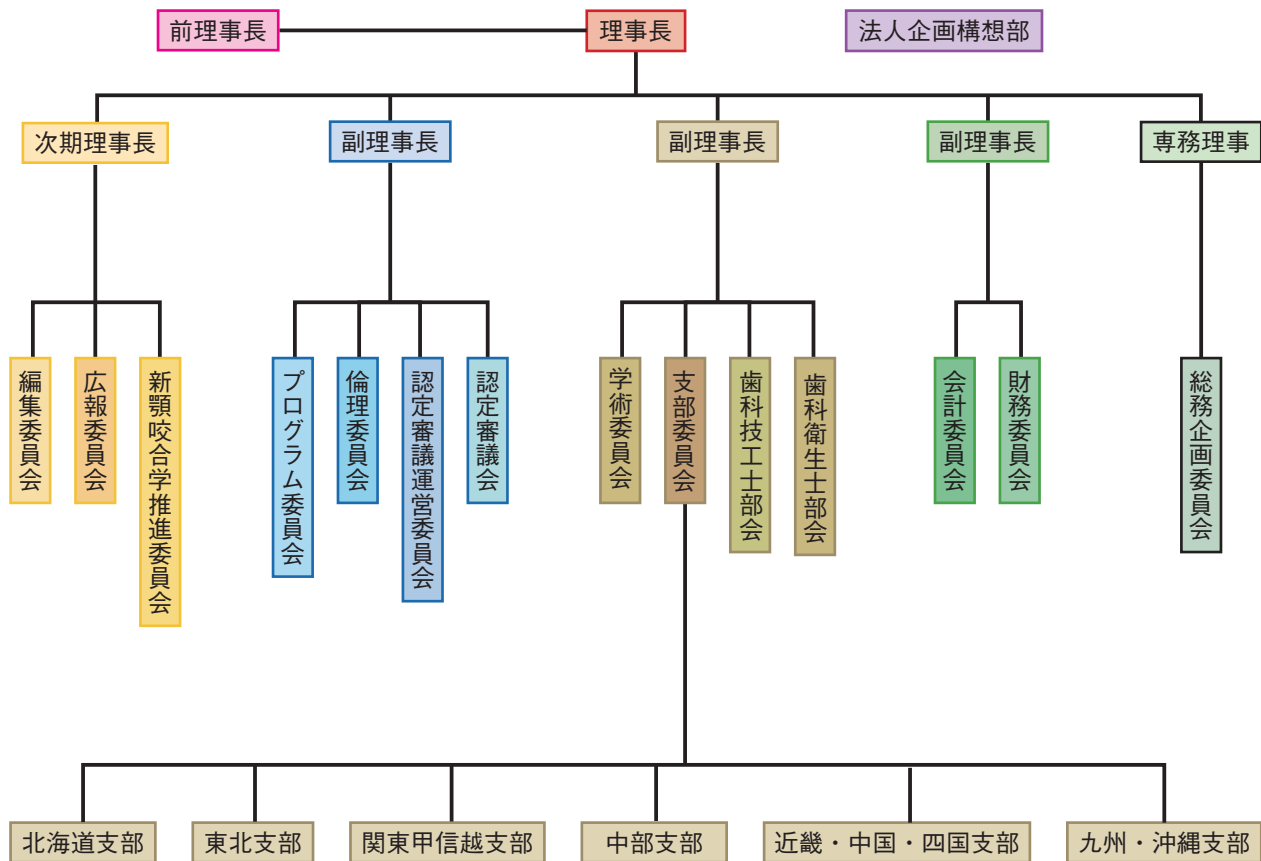
主な事業基本計画と目標

- 若手歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士の育成
- 本部と支部の一体感
- 支部の活性と支部間の協力体制の強化
- 若手歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士の登竜門の確立

事業連携



日本顎咬合学会 役員ディビジョンツリー



※ディビジョンツリーの詳細は学会ホームページに掲載を予定しております。

メールアドレスご登録のお願い

現在、メールアドレスをご登録いただいている会員のみなさまにメールマガジンの配信を行っております。学術大会、咬合フォーラムについてなど、学会の最新情報をいち早く会員のみなさまにお届けしています。

メールマガジンの配信は学会ホームページの会員専用ページよりご登録いただけます。ログイン後、「登録内容確認・変更」にてメールアドレスをご入力の上、メールマガジン配信欄の「可」にチェックをお入れください。「この内容で登録する」にてご登録を完了いたしますと、次回メールマガジンより配信をさせていただきます。一度会員専用ページでご確認ください。ご登録をお待ちしております。





The 39th Annual Meeting of the American Academy of Esthetic Dentistry

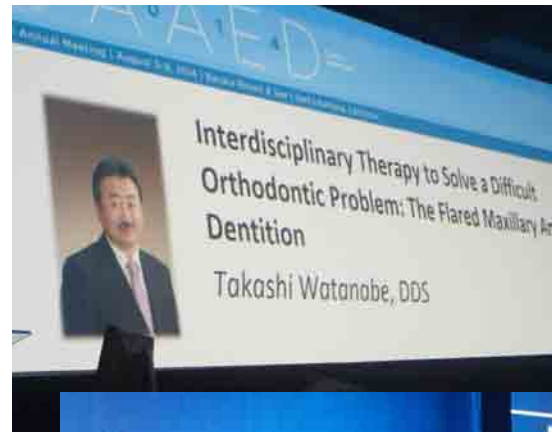
2014年度の海外研修は、8月5日～8日の日程で、カリフォルニア州サンタバーバラにて行なわれた、第39回アメリカ審美歯科学会（American academy of esthetic dentistry）が対象となりました。

この学会の正会員である渡辺隆史理事長，河津 寛監事をはじめ，約20人の参加がありました。

アメリカ審美学会（AAED）は，世界的に高い評価を受けているそうそうたる著名な歯科医師が，最新の技術と知識を併せ持った「審美性と機能性の回復を兼ね備えた治療」を発表する場で，今回は，第36回大会に続き，渡辺理事長が発表し高い評価を受けました。



第39回アメリカ審美歯科学会プログラム



渡辺隆史理事長発表

平成 26 年度 日本顎咬合学会始動！

平成 26 年 7 月 23 日（水）新年度第一回常任理事会、それに引き続き、賛助会員企業との懇談会、懇親会が開催され、第 32 回学術大会に賛助いただいた企業より、33 社のご参加をいただきました。今大会の反省点、次回大会成功へ向けての建設的なご意見を頂き、更に懇親会でも、活発な交流が行なわれました。



常任理事会



賛助会員企業懇談会



賛助会員企業懇親会

日本顎咬合学会相談役に就任して

ご就任された相談役の方々からコメントをいただきました。

石坂芳男 トヨタ自動車株式会社 顧問

日本の物作りの原点とも言える自動車産業に身を置き、日本の高度経済成長の一翼を担う会社人間としてガムシャラに働き、気が付けばすでに半世紀、何とも嫌いな表現ではありますが後期高齢者に最接近しておりました。

幸いにして必要最低限度の定期健康診断のおかげか、何とか年々の健康を保っております。家族も三人の子どもの家庭を含め全員健康で平穏無事です。しかし、友人知人には、いろいろな病気で健康を阻害された方も多く、改めて健康の二文字の重みを感じております。テレビ、新聞、雑誌で見聞きするサプリメントや健康補助器具に興味はありませんが、本学会の提唱されておられる「健口は良く噛むことから」については大いに賛同し、更に啓蒙活動にささやかでもお手伝いできればと思っております。

鈴木 豊 キューピー株式会社 前社長

この度、貴学会の相談役に就任させていただきました。思えば食品メーカーにいた頃、通院していた先生とのご縁から、いつの間にか十年近いお付き合いになるのでしょうか。

食べる“もの”と“こと”の違いはあれ、国民の健康を思う気持ちは同じです。

「美味しく食べること」は、人生を豊かにする一つの条件とも云えます。その条件を得るには「噛む」という行為が、当然必要なのです。しかし、私たちは、「噛む」行為がもたらす価値を知らなさすぎたのかもしれない。

良識ある歯科医師さん達の思いが集まったこの学会が、科学的な知見で噛むことと健康の関係を知りやすく世に知らせ始めたということだと思います。まさに、超高齢社会に突入し、一層健康を意識し始めたこの時にです。私たちの役目は、一人でも多く健康でおいしく食べることが出来る幸せを創ることです。その使命を果たされようとしている貴学会を微力ながら応援させていただこうと思っております。

垣添忠生 公益財団法人 日本対がん協会会長

2014年6月16日付で、日本顎咬合学会の相談役に就任した。

私はがんの専門家だが、日本顎咬合学会との関わりは、昨年8月、北海道の霧多布湿原に向う車中の会話から始まる。同乗の前キューピー株式会社社長の鈴木氏より、「管だらけで寝たきりの女性が、口から食事が摂れるようになったら、2カ月で退院し、6カ月後に海外旅行に出かけた、というDVDを見た」との情報を得た。

この話に強い興味を覚えた私は、帰京後、日本顎咬合学会の事務局で、増田先生からそのDVDを見せていただいた。衝撃的だった！

口腔機能、咬むことの重要性に目覚めた私は猛然と勉強して、1月19日付の読売新聞朝刊1・2面に亘る「地球を読む」に、このことを執筆した。この内容が歯科の先生方を中心に高く御評価いただき、講演やインタビューの機会も数多くいただいて今に至っている。

今回の相談役就任を期に、よく咬んで食事することは人のライフ・ステージのすべてに関わる重大問題であることを訴え続けたいと思う。

第15回 咬合フォーラム

in 大阪

新・顎咬合学 ～近未来へのパラダイム・シフト～



座長：南 清和（大阪市開業）

1986年 城西歯科大学（現 明海大学）卒業
カミムラ歯科医院勤務

1990年 淀川区新大阪にて開業

日本顎咬合学会 前理事長

2014年9月28日（日）10:15～16:30（開場9:50）

グランキューブ大阪（特別会議場12階）

〒530-0005

大阪府大阪市北区中之島5-3-51 TEL.06-4803-5555



倉富 覚 学術委員長

学術委員長挨拶 倉富 覚

咬合フォーラムも今回で15回目を迎えました。この咬合フォーラムは学術大会と並び、日本顎咬合学会の根幹をなす学術事業です。幅広い分野にわたる講演が魅力のひとつでもある6月の学術大会と比較して、いわば日本顎咬合学会の原点ともいえる「咬合」に焦点を当てたフォーラムです。今回は場所を大阪に移し、「新・顎咬合学～近未来へのパラダイム・シフト～」というテーマで開催させていただくことになりました。渡辺隆史理事長が牽引役となり、日本顎咬合学会が推進している「新・顎咬合学」は、昨今さまざまなメディアに取り上げられることも多く、歯科と全身の関わりについて国民の関心も高くなってきたと同時に、われわれ歯科医師に対する期待も高まっていることを実感せざるをえません。この期待に応えることができるかどうか、今後の歯科界全体の発展のカギを握っていると言っても良いのではないのでしょうか。今回は阿部伸一先生（東京歯科大学教授）、荒谷昌利先生（埼玉県春日部市ご開業）、今井一彰先生（内科医）の3名の先生にご登壇いただき、それぞれの観点から咬合・咀嚼と全身の関わりを解説していただきます。また、南 清和先生（日本顎咬合学会前理事長）に座長の労をお願いし、3名の先生方のご講演を紐解くナビゲーターとなっていただきます。最後に今回の開催にあたり、ご尽力いただきました石原 研先生はじめ近畿中国四国支部会員の先生方に厚く御礼申し上げます。

プログラム

10:20～11:50

環軸関節を中心に考える頭頸部機能解剖学 阿部 伸一



● 阿部 伸一 先生 略歴

1983年 芝高等学校卒業
1989年 東京歯科大学卒業
1993年 東京歯科大学大学院終了（歯学博士）
2008年 台北医学大学口腔医学院（台湾）臨床教授（現在）
2010年 東京歯科大学解剖学講座教授（現在）

患者固有の下顎位を正確にとらえ、それを念頭においた義歯の作製は、歯科補綴の成否を決める重要なファクターであることは言うまでもない。下顎位とは、顎骨周囲だけの問題でなく、頭蓋骨と連結している脊柱の骨、ならびに頸部の筋と密接に関連している。頸椎の中で第1頸椎（環椎）は頭蓋と関節する骨で、椎体を欠く。第2頸椎（軸椎）は椎体の上面に、第1頸椎の椎体が癒合した歯突起をもっている。この歯突起を軸として環軸関節を構成し、頭蓋の回転が行われる。そして頭部と頸部の間には多数の筋が付着し、主に脊髄神経に支配されて頭頸部の運動が行われている。頸椎後部には多くの筋が存在するが、頭位にとって重要な筋群に後頭下筋群があり、これらの筋の作用によって、頭が後方に引かれ、頭位が直立位に維持される。後頭下筋群には、大後頭直筋、小後頭直筋、上頭斜筋、下頭斜筋がある。

本講演では、頸椎の基本的な構造と機能および椎骨に付着する頸部と背部の筋の形態、および機能について解説する。さらに下顎位決定にとって重要な義歯周囲の筋などについて解説を加える。

11:50～12:50

休憩

12:50 ~ 14:20

真に安定した顎頭位を原則とする咬合治療

—Introduction to bioesthetic dentistry

荒谷 昌利



- 荒谷 昌利 先生 略歴
- Member of The Academy of Bioesthetic Dentistry
- OBI Japan 主幹
- 5-D Japan アドバンスコース 講師

歯、歯周組織、舌、筋、顎関節などから構成される顎口腔系は、文字どおり生体システムのひとつであり、周囲の組織や器官と常に連携している。生体システムが個体の中で最適な健康状態を示すとき、構成要素はすべて、何らかの形で秩序だっている。システム論的思考によれば、どこかの部分の秩序が低下した状態で、システム全体が健康でいられる保証はない。システム全体の健康の確立は部分間の相互作用の結果であり、その性質は構成要素の分析だけでは説明できない。あるシステムがどんな構成要素から成り立っているかは見分けられたとしても、全体の性質は常に構成要素の単なる総和とは異なるからである。われわれが咬合を評価するときも同様に、いくら詳細に咬頭嵌合の状態が議論されたとしても、それに関連した顎関節の安定が同時に得られなければ、顎口腔系全体の健康を確立することは困難であろう。

今回の講演では、システム論的視点から考察した、顎口腔系に対する具体的アプローチ法を紹介させていただきたい。

14:30 ~ 16:00

これからの歯科医療に期待すること 今井 一彰



- 今井 一彰 先生 略歴
- 1995年 山口大学医学部卒業
- 1995年 山口大学医学部救急医学講座入局
- 1997年 麻生飯塚病院 総合診療科・漢方診療科
- 2001年 山口大学医学部附属病院 総合診療部
- 2003年 (医)清仁会 林病院 内科・東洋医学専門外来
- 2005年 (医)樹一会 山口病院 漢方と痛みの外来
- 2006年(11月) みらいクリニック開院

2011年に「口を閉じれば病気になる」という一般向け書籍を上梓した。口を閉じると言うこと、つまり鼻呼吸状態が病気予防になるということだ。この口呼吸という意識されることの少ない悪習慣により人体にどのような影響が出るのであろうか。

今回は、口呼吸の問題を慢性炎症という観点から考えてみたい。慢性炎症ががんや生活習慣病などの基礎となっていることが解明されてきているが、口呼吸は口腔乾燥、歯肉炎の悪化など口腔内環境を悪化させる。これにより、慢性炎症が形成され、疾病の根っことなり様々な病名の枝葉を伸ばすのである。

口呼吸では歯面の乾燥、歯・口腔の冷えが起こり、歯垢、歯石沈着が促進されたり、う蝕、歯肉炎を引き起こす。それは病巣となり、遠隔臓器に二次性の器質的、機能的な疾患を引き起こすことがある。いわゆる病巣感染症（病巣疾患）である。ところが遠隔臓器の病変に気を取られてしまい、原病巣の治療が出来なければ同様の疾病を繰り返すことになってしまう。

オーラルケア（OC）の目的は、引き続き起こされる全身の問題を未然に防ぐことでもある。治療よりも予防の方が簡単で費用も抑えられるので、OCは全身の疾病予防につながる。歯科医療に、OCから全身病を予防するという予防医療の大きな役割を期待している。

16:00 ~ 16:30

ディスカッション

参加費

- | | | | |
|------------|---------|------------|--------|
| ● 会員歯科医師 | 5,000円 | ● 非会員歯科衛生士 | 1,000円 |
| ● 非会員歯科医師 | 10,000円 | ● 歯科助手 | 1,000円 |
| ● 会員歯科技工士 | 1,000円 | ● 臨床研修医 | 1,000円 |
| ● 会員歯科衛生士 | 1,000円 | ● 学生 | 1,000円 |
| ● 非会員歯科技工士 | 1,000円 | | |



会員カードを忘れずにお持ちください。

入場の際に出欠を取らせていただきます。

※日本歯科医師会にご所属の先生は生涯研修登録ICカードをお持ちください。

「新・顎咬合学」活動報告

日本顎咬合学会の活動が『週刊ポスト 2014年4月25日号』に全16ページにおよび掲載されました。
記事全文は学会ホームページより閲覧できます。

ホームページ URL : <http://www.ago.ac/>

16P総力特集PART1 最新デンタル・サイエンス

長生きしたい人は
今日から実践
してください

噛める人はなぜ死ぬまで健康で長生きできるのか?

歯がすべてなくなっても「噛める義歯」で寝たきり老人が甦る!
口腔ケアアイテム「くるリーナブラシ」で病気が一気に改善される!
歯科医療現場で次々起きている「回復症例」を緊急レポート

歯科医の間で話題の本「噛み合わせが人生を変える」最新報告

16P総力特集PART2 最新デンタル・サイエンス

「噛めると長生き」を裏付ける7つの根拠

よく噛むと長生きの秘訣
「噛む」という行為が、数多くの研究で明らかにされている。噛むという行為が長生きに繋がっている。噛むという行為が長生きに繋がっている。噛むという行為が長生きに繋がっている。

噛むという行為が長生きに繋がっている。噛むという行為が長生きに繋がっている。噛むという行為が長生きに繋がっている。

噛むという行為が長生きに繋がっている。噛むという行為が長生きに繋がっている。噛むという行為が長生きに繋がっている。

なぜ噛むと長生きなのか?
咀嚼は寿命を縮める原因の1つだが、咀嚼には血液循環が深く関係している。咀嚼が下がることで、血圧も上がり、心臓の負担も大きくなる。噛むことで血圧が下がり、心臓の負担も軽減される。噛むという行為が長生きに繋がっている。

～ 支部活動報告 ～

北海道支部

『支部学術大会をもっと活気のあるものにするには、どうすればいいか？』
今までと違ったことは、以下の3点です。

①ランチョンセミナーの実施

おかげで昼食の心配をしないですんだこと、同時に、有益な話も聞くことができました。この取り組みが、一番好評でした。

②企業様ブースの設置

企業様10社に展示をしていただき、会場全体が華やいただけでなく、会員と企業様の間での会話も多く見られにぎやかになりました。

③プログラムの体裁の向上

昨年までは安物のコピー用紙をホッチキスで留めただけのものであり表紙もなかったが、今回は紙質をよくしたり、演者の顔写真を載せたり、費用をかけ会員をあっと驚かせた？ と思います。このプログラム作成が一番辛く苦しい思いとなりました。費用を捻出するため、企業の方に展示とは別の広告を出していただいたことにより、どうにか実現させることができました。

学術大会なのだから、学術、内容で勝負！ ということはわかった上での取り組みでした。新しいことをはじめるとするのは大変なものです。アイデア、費用、労力などなど。しかし、そのおかげで支部理事のミーティングも最低でも1カ月に1回行うようになり、様々な工夫をするための取り組みが、結果として支部の結束を強める結果になったと思います。今まで以上に多くの会員が集まり、関心のあるテーマで、みんなが盛り上がるような支部にできるよう奮闘しております。



東北支部

2011年の東日本大震災により東北支部が甚大な被害を被ったため、学術活動が出来ない状況が続いていましたが、渡辺理事長が就任された2012年より復興の願いを込めて学術大会を再開しました。第12回より20回まで「みんなで創る元気な歯科医院—チーム医療—」をメインテーマに掲げて、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士・助手、歯科メーカーの四位一体で企画を行い、年5回程度の準備委員会を開催してきましたが、震災後の非常に苦しい中で頑張れたのは、会員仲間の助け合う力があつたからでした。その協力関係がなければここまで充実した学術大会は開催できなかったと思います。

第17回東北支部学術大会：2012年4月1日(山形県開催・参加者271名)

「デンチャーシンポジウム」阿部二郎先生、亀田行雄先生、小久保京子先生、佐藤勝史先生

第18回東北支部学術大会：2012年11月3日(宮城県開催・会員発表7題・参加者117名・企業展示18社)

「ファミリーデンティストリー ～生活に密着した歯科医療を目指して～」 渡辺隆史先生

「歯科衛生士としての治療のゴールとは」村上恵子先生

第19回東北支部学術大会：2013年11月23日(宮城県開催・会員発表8題・参加者135名・企業展示17社)

「チーム医療が患者を救う ～スタッフとの連携で明るい歯科医院づくりをしよう～」 若林健史先生

第20回東北支部学術大会 第20回記念大会：2014年11月30日(宮城県開催)

「テーブルクリニック」平井順先生、

「歯周治療成功の鍵は医院の総合力」山岸貴美恵先生

第1回認定歯科衛生士検定試験：2013年3月13日 37名全員合格

第2回認定歯科衛生士検定試験：2014年4月6日 9名全員合格



東北支部はこれからも会員の希望に沿った活動をしたいと思っておりますので、ご要望をお待ちしております。

関東甲信越支部

関東甲信越支部での取り組みとしましては、支部会員を対象に「若手ベーシックセミナー」を開催してまいりました。支部会員の活性化とレベルアップを目的に昨年度は平成25年9月29日、11月23日、平成26年1月19日、3月2日、5月18日、7月13日の計6回開催いたしました。いずれも募集定員を上回るという嬉しい反響であり、若手の先生方の熱心さが伝わる素晴らしいセミナーとなりました。

支部学術大会も第2回目が開催され、無事終了することができました。

今年度は9月14日に開催される予定で支部理事会も同日開催し、来年度の大会の準備を行う予定です。予約会場の都合もありますが、引き続き『新・顎咬合学』のテーマのもと、従来通り、広い視野で健康な口腔の維持を目指す歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士になることを掲げ、参加数の増員を行なって行きたいと思っております。具体的には若手の理事の先生に特にお声がけを頑張ってください。また歯科技工士、歯科衛生士にも発表の機会を与えることなど、会員発表数の増加を目指しディスカッションを大いに盛り上げていきたいと思っております。



中部支部

「新・顎咬合学」のテーマ、そして新体制になって早くも数年の月日が経ちました。当支部におきましても若手の理事を積極的に起用することで組織の活性化を期待しています。まだまだ課題は山積みではありますが若さゆえのエネルギーで乗り切っていくと欲しいと願っております。その甲斐あってか、嬉しいことにちょうど時期を同じくして支部内の北陸地区が「北陸日顎会」と銘打って積極的に地域にアピールしていこうとする有志をメンバーとし発足しました。このことは理事会でも承認

され、日本全国の地域性を考慮した中での展開事業のモデルケースとして認められました。今年度で3年目を迎えますが順調に運営の方は進み結果としても会員数の増加に大きく影響を与えたものと思っております。あとは静岡地区のネットワーク作りが課題であったのですが、今年度より合同での例会運営などを開催できる意向が固まってまいりました。最終的には東海地区、北陸地区、静岡と地区別に若手の選抜会員発表などができるように運営していきたいと思っております。さて、なぜ当支部はネットワークにこだわって運営をしているのかといいますと、静岡を除いては地域性の影響で情報や啓発が届いていないエリアが多く見られるからです。このことを先にクリアしていくことで学会における会員の増加やアピール力が強化されると期待しています。確実に正しい教育と情報を提供し、咬合の重要性を啓発していくためにこれからも精進していく所存です。



近畿・中国・四国支部

近畿・中国・四国支部では、支部学術大会において歯科医師のみならず歯科技工士、歯科衛生士の皆さんにも参加、発表をしていただける場を作りたく思っております。「新、顎咬合学」の旗の下、患者さんQOL向上のため、歯科技工士、歯科衛生士の皆さんの力なしではチーム医療はなしえないからです。また歯科医療に携われる幸せを、学術大会を通じて実感できる学術大会を目指しています。

| |
|---|
| 支部学術大会 2012年9月9日(日) 10:00～16:00 |
| 会員発表 1. 東山歯科医院 東山 一郎先生(神戸市開業) 「歯牙移植を行なって8年半目の症例と昨年行った移植症例(いずれも自家移植)」 2. タニオ歯科クリニック 谷尾 和正先生(大阪市開業) 「長期維持・安定を目指して行った全顎的治」 3. 坂口歯科クリニック 坂口 雄一先生(神戸市開業) 「目の前の患者さんから逃げないために～病院力を高める～」 4. 公園前中山歯科 日栄 綾乃様(和歌山市) 「口呼吸から鼻呼吸へ!! 舌・口唇癖、態癖が歯列に悪影響を及ぼすことに気付かされた当院の症例を中心に」 5. 大槻歯科医院 大槻 榮人先生(三田市開業) 「下顎埋伏智歯抜歯後に発症した下口唇知覚異常の要因―パノラマX線画像と歯科用CT画像における比較―」 |
| 特別講演 若林 健史先生(東京都渋谷区開業) 「チーム医療、安心できる歯科医院経営のためのシステムづくり」 ～歯周治療を成功させるためのポイント～ |

| |
|---|
| 支部学術大会 2013年10月13日(日) 10:00～16:00 |
| 会員発表 1. カツベ歯科クリニック 松村 健司先生(大阪府大阪市) 「咬合再構成において診断ワックスアップの重要性を感じた症例」 2. なかやま歯科 藤岡 直也先生(大阪府大阪市) 「低侵襲で確実なソフトティッシュマネジメントを目指して」 3. 坂田歯科医院 坂田 晋也先生(愛媛県四国中央市) 「インプラントを用いて審美性を考慮し咬合再構成をおこなった症例」 4. モリタ歯科医院 森田 潤生先生(滋賀県守山市開業) 「インプラント補綴におけるリトリーバビリティーを得るための補助的スクリュー」 5. 小林歯科医院 小林 文夫先生(兵庫県神戸市開業) 「Sinus floor elevation の感染症例の検証」 |
| 特別講演 夏堀 礼二先生(夏堀デンタルクリニック 青森県八戸市開業) 「患者満足度の高いインプラント治療について」 |



九州・沖縄支部

2013年1月14日(月) 歯科衛生士認定研修Ⅱ・Ⅲと認定試験

福岡県歯科医師会館で受講、受験者は47名、全国で初めて開催される認定研修と試験のため、脇本貞前支部長を始め、支部役員の先生方の協力のもと、本部作製の実施マニュアルに基づき、スムーズに運営出来ました。認定研修Ⅱの講師である伊藤公一先生、認定研修Ⅲの講師である村上恵子先生、小林明子先生、鍵和田優佳里先生のチームワークで素晴らしい内容の研修になりました。

2013年10月27日(日) 認定医教育研修会

JR博多シティ会議室で200名を越える参加者の中、伊藤公一先生と阿部伸一先生にご講演いただき、有意義な研修会となりました。終了後、支部理事会を行い、前支部長脇本先生から現支部長田中への引き継ぎのご挨拶、新役員の顔見せをかねまして、今後の支部における活動強化のため、意思の疎通をはかることができました。



2014年2月23日(日) 支部学術講演会

アクロス福岡(福岡市)大会議室にて行われ、200名を越える参加者のもと盛会に終了することができました。今回は渡辺隆史理事長はじめ、俵木勉支部委員長、そして各支部の支部長に参加していただき、多くのご意見とご指導を賜りとても実りのある会となりました。感謝申し上げます。終了後、支部理事会を行いました。



2014年3月21日(金) 支部歯科衛生士認定研修Ⅱ・Ⅲ、検定試験

福岡県歯科医師会館会議室にて受験者17名、前年同様4名の講師をお招きし、滞りなく試験を終えることができました。この先生方の努力に報いるためにも、この認定衛生士制度がより良い制度に発展するよう支部としても努力したいと思います。

Informations

第 32 回日本顎咬合学会学術大会・総会

6月14日、15日、東京国際フォーラムにて、第32回日本顎咬合学会学術大会が開催されました。2日間で、前回大会に続き5,000名を超える参加者があり、盛況裏に閉会いたしました。審美歯科の第一人者、Pascal Magne先生、インプラント光機能化ならびに生物学的研究の世界的権威、UCLA教授、小川隆広先生のお二人による特別講演をはじめ、多くの貴重な講演、そして、日本顎咬合学会の真髄とも言える臨床に即した、レベルの高い口演発表、ポスター発表の観智が会場を満たしました。参加いただきましたすべての関係者に感謝申し上げます。

表彰者一覧

| | | |
|---------------------|--------|------------|
| 学会誌優秀論文賞 | 山崎 史晃 | 歯科医師部門 |
| | 吉永 仁 | 歯科医師部門 |
| 第31回学術大会優秀発表者(口演) | 吉野 晃 | 歯科医師 |
| | 藤本 光治 | 歯科技工士 |
| | 久保田 麻弓 | 歯科衛生士 |
| | 三宅 宏之 | 歯科医師 |
| | 鈴木 篤史 | 歯科医師 |
| | 蘇 東平 | 歯科医師 |
| | 虻江 勝 | 歯科医師 |
| | 戸渡 孝一郎 | 歯科医師 |
| | 李 明科 | 歯科医師 |
| | 白数 正義 | 歯科医師 |
| 第31回学術大会優秀発表者(ポスター) | 菅崎 紳 | 歯科医師 |
| | 鈴木 淳 | 歯科技工士 |
| | 勝部 義明 | 歯科医師 |
| | 西海 香屋子 | 歯科衛生士 |
| | 杉山 豊 | 歯科医師 |
| 若手歯科医師の登竜門支部選抜優秀発表者 | 吉田 拓志 | 歯科医師+矢澤一浩賞 |



第 33 回 日本顎咬合学会学術大会・総会

《テーマ》 新・顎咬合学 ——機能を表現する。機能を捉える。機能を発信する。——

《開催日》 2015年6月27日(土)・28日(日)

《会場》 東京国際フォーラム

《演題募集期間》 2014年12月1日(月)～2015年1月30日(金)

※抄録投稿の締切は2月27日(金)です。

※募集期間は予定です。予告なく変更する場合がございますので予めご了承ください。

詳細は、後日発行のパンフレットにてご確認ください。たくさんのご応募お待ちしております。

準会員（学生会員）登録開始のお知らせ

平成 26 年 9 月より準会員（学生会員）のご入会ができるようになりました。
臨床研修医証明書又は学生証コピーの PDF 又は JPEG ファイルをご準備の上、学会HP→新入会→準会員登録ホームよりお申し込みください。

- 準会員** 学生（歯科技工士学校・歯科衛生士学校を含む）及び研修医及び大学院生
（社会人大学院生を除く）
- 会費** 入会金：1,000 円 年会費：2,000 円
- 特典**
- ・本部学術大会、咬合フォーラム、支部学術大会に無料で参加することができます。
 - ・会員証を発行致します。
 - ・学術大会抄録、学会からのお知らせ（学術大会、研修会案内）News Letter をお送りします。
 - ・準会員から正会員に移行する際は正会員の入会金は免除されます。
 - ・希望者には学会誌を実費にて頒布致します。（1冊 3,500 円）
- ※認定受験資格の会員歴は正会員に移行後からが対象となります。

歯科技工士 認定研修 I を受講された皆様へ 今後のスケジュールのお知らせ

6 月 15 日（日）に東京国際フォーラムのホール C で開催された認定研修 I には多くの歯科技工士、歯科衛生士の皆様にご参加いただきました。

歯科衛生士認定研修 II・III、検定試験についてはすでに申込みを終了しており、9 月の東京会場から順次実施する予定です。

認定歯科技工士検定試験は下記の要領で実施いたします。認定研修 I を受講された歯科技工士の皆様には 10 月頃にご案内を郵送する予定です。お申込みください。

◆認定歯科技工士 検定試験のご案内

- 実施日程：2015 年 4 月 19 日（日）14：00～17：00
実施会場：JA 共済ビルカンファレンスホール（東京都千代田区平河町 2-7-9）
※事前講義、認定試験
※認定医検定試験と合同実施

◆合格発表 第 33 回日本顎咬合学会学術大会（2015 年 6 月 27 日、28 日）

※ 2015 年度認定医検定試験について

2015 年度認定医検定試験は下記の要領で開催いたします。入会后 2～5 年の歯科医師の皆様には 12 月頃にご案内を郵送いたします。併せてホームページ上でもご案内いたしますので、その他の先生で受験を希望される場合はそちらをご覧ください。

- 実施日時：2015 年 4 月 19 日（日）10：50～17：00
実施会場：JA 共済ビルカンファレンスホール

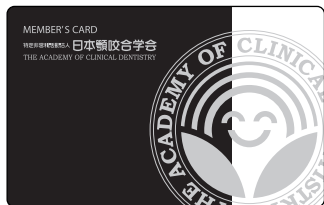
2014 年度 認定医・認定歯科技工士・認定歯科衛生士検定試験結果報告

今年度の認定医検定試験は 5 月 25 日（日）、認定歯科技工士検定試験は 4 月 6 日（日）に JA 共済ビルカンファレンスホール（東京）で実施されました。また、認定歯科衛生士検定試験は 3 月～4 月に 6 支部の各会場にて実施されました。

その後、5 月 25 日（日）の認定審議会・認定審議運営委員会の合同委員会において厳正な採点が行われ、その結果は 6 月 13 日（金）開催の理事会で審議され、新たに認定医 160 名、認定歯科技工士 94 名、認定歯科衛生士 162 名が承認されました。認定された皆様方の健闘を讃えとともに、今後のご活躍を期待しております。

（認定審議会委員長 平井 順）

| | |
|---------------|-----------------------------------|
| 【認定医検定試験】 | 受験者 184 名・合格者 160 名 |
| 【認定歯科技工士検定試験】 | 受験者 106 名・合格者 94 名(100 点満点 27 名) |
| 【認定歯科衛生士検定試験】 | 受験者 164 名・合格者 162 名(100 点満点 73 名) |



● 会員カード発行のお知らせ

2012年度より会員カードを発行しております。学術大会・咬合フォーラム・研修会などの受付手続きや単位申請（申請方法は会によって異なります）に必要となりますので開催時には必ずご持参頂きますようお願いいたします。

● 学会ホームページの「会員専用ページ」をご利用ください

- ・勤務先・自宅・お届け先など登録内容の確認・変更
- ・認定資格・単位取得状況の確認
- ・年会費のお支払（カード決済）、お支払状況の確認
- ※コンビニ・郵便振替をご希望の方は事務局までご連絡ください

- ・2014年度の年会費の納入がまだお済みでない方は、至急お振込みをお願いいたします。
- ・過去に未納分がございますと、認定試験、認定医の更新、学術大会への参加ができませんのでご注意ください。
- ・学会からの発送物は郵便及びメール便を利用しています。メール便の場合は転送されませんのでお届けできない場合がございます。勤務先の変更、転居等登録内容に変更が生じた場合は、至急変更のお手続きをお願いいたします。
- ・「WEB会員システム」のご利用には、会員ID（会員No）とパスワードが必要です。ご不明な場合は事務局までお問い合わせください。

2014年度 各支部の事業予定（自 2014年4月1日～至 2015年3月31日）

| 支部名 | 区分 | 開催日 | 会場 | 内容、講師等 |
|----------------|----------|---------------------------|-----------------------|--|
| 北海道 | 認定医教育研修会 | 2014年 10月19日（日） | 北海道歯科医師会館 | テーマ：「高齢者の摂食・嚥下と機能回復」 弘中 祥司 先生（昭和大学歯学部口腔衛生学 教授） 林 揚春 先生（東京都開業） |
| | 支部学術大会 | 2014年 10月18日（土）・19日（日） | 北海道歯科医師会館 | テーマ：「もう一度咬合を再考する」 18日（土）特別講演 舘野 常司 先生（静岡県熱海市開業） 「Tooth Morphology and Occlusion 歯牙形態学と咬合学」 19日（日）一般口演：4題 |
| 東北 | 認定医教育研修会 | 2014年 10月13日（月・祝） | 宮城県歯科医師会館 | テーマ：「高齢者の摂食・嚥下と機能回復」 弘中 祥司 先生（昭和大学歯学部口腔衛生学 教授） 林 揚春 先生（東京都開業） |
| | 支部学術大会 | 2014年 11月30日（日） | 宮城県歯科医師会館 | テーマ：第20回 記念大会「みんなで創る元気な歯科医院」 特別講演 【歯科医師・歯科技工士部門】平井 順 先生（神奈川県川崎市開業） 【歯科衛生士部門】山岸 貴美恵 先生（長野県谷口歯科医院勤務） 会員発表：8題予定 |
| 関東 甲信越 | 認定医教育研修会 | 2014年 9月15日（月・祝） | JA 共済ビル カンファレンスホール | テーマ：「高齢者の摂食・嚥下と機能回復」 弘中 祥司 先生（昭和大学歯学部口腔衛生学 教授） 林 揚春 先生（東京都開業） |
| | 支部学術大会 | 2014年 9月14日（日） | 全国町村会館ホール | テーマ：「もう一度咬合を再考する」 咬み合わせベーシックセミナー 講師：菅野 博康 先生（宮城県仙台市開業） 「安定した咬頭嵌合位を求めて（よく噛み、おいしく食べるために）」 会員発表：4題 |
| 中部 | 認定医教育研修会 | 2014年 11月3日（月・祝） | ジーシー名古屋営業所 | テーマ：「高齢者の摂食・嚥下と機能回復」 弘中 祥司 先生（昭和大学歯学部口腔衛生学 教授） 林 揚春 先生（東京都開業） |
| | 支部学術大会 | 2014年 12月7日（日） | 名古屋国際会議場 | 基調講演 講師：新井 俊樹 先生（一の会） 「線引きをしない歯科医療」 会員発表（シンポジウム形式にて） |
| 近畿 中国 四国 | 認定医教育研修会 | 2015年 1月25日（日） | 千里ライフサイエンス センター | テーマ：「高齢者の摂食・嚥下と機能回復」 弘中 祥司 先生（昭和大学歯学部口腔衛生学 教授） 林 揚春 先生（東京都開業） |
| | 支部学術大会 | 2015年 1月24日（土）・25日（日） | 千里ライフサイエンス センター | 咬み合わせベーシックセミナー 講師：菅野 博康 先生（宮城県仙台市開業） 「安定した咬頭嵌合位を求めて（よく噛み、おいしく食べるために）」 会員発表 |
| 九州 沖縄 | 認定医教育研修会 | 2015年 2月8日（日） | 福岡ビル9階会議室 | テーマ：「高齢者の摂食・嚥下と機能回復」 弘中 祥司 先生（昭和大学歯学部口腔衛生学 教授） 林 揚春 先生（東京都開業） |
| | 支部学術大会 | 2015年 2月7日（土）・8日（日） | 福岡ビル9階会議室 | 咬み合わせベーシックセミナー 講師：菅野 博康 先生（宮城県仙台市開業） 「安定した咬頭嵌合位を求めて（よく噛み、おいしく食べるために）」 会員発表：6題 |